



社労士のつばやき（72） 元祖・同一労働同一賃金

安倍政権の時代、「一億総活躍社会」という標語がよく使われました。老若男女問わず、障害者も難病者も、誰もが地域や職場で活躍できる社会の実現を目指す、というものです。世間では、「戦時中の『「進め一億火の玉だ!』のローガンみたいだ」という陰口がありました。私も何か心に引っかかるモノがあって、もどかしい気持ちでした。それは、一億総活躍社会実現のため、最も必要な政策は「働き方改革」だ、と安倍総理がスピーチしたことがきっかけです。働き方改革の内容は、「非正規を無くす」「同一労働同一賃金」「生産性の向上」などですが、あれ？これはどこかで聞いたような・・・

実は、日本で同一労働・同一賃金を実施されたのは戦時中でした。戦争が拡大すると、働き手の男性は戦地に取られ、農村や工場の担い手は老人や子ども、女性に移りました。当初は主要な働き手の補助、今で言う非正規のような扱いでしたが、戦争が深刻さを増すと軍需産業に重点が置かれるようになり、繊維業や小売業などは「不要不急の産業」として廃業を強制されてしまい、そこで働いていた人々には徴用令で勤務先まで命じられるようになりました。これは戦争に行かない世代、主に家庭の大黒柱で30～40代の正社員男性が対象でしたが、彼らにとってはこれまでとは全く違う仕事をイチから始めることとなります。当然、給料も安くなる。このような不満を抑えるため、国は賃金統制令などで賃金と初任給を固定化し、皆が同じ賃金を得るようにしたのでした。例外的に優秀な人材や経験者は（賃金を）優遇しても良い、というオマケはありましたが、こうして戦時中、見事に非正規労働者が消え、賃金格差も無い「平等社会」が実現したのでした。

さて、一億総活躍の方針に基づき、いよいよ21年4月からパートタイム・有期雇用労働法による「同一労働同一賃金」が中小企業にも義務付けられます。戦時中と異なるのは、国が賃金の額や働く場所を強制していないことです。しかし企業は、正社員とパートで賃金などに差があった場合、「なぜ差があるのか」を説明しなければならないのです。つまり正社員とパートの職務や責任の度合いを就業規則等で明文化し、人事評価で賃金を上げるという制度を設けなければならなくなったのです。戦時中の軍需工場が、国から賃金規則や昇給制度の規定を義務付けられたことと全く同じです。

やったー！国が社労士の仕事を増やしてくれて万々歳！ってか？

社労士事務所アジュール 高 龍弘

燃料カードの価格表【2020年12月分】

AMSカード ※共通利用可能		ENEOSビジネスカード		全国共通・燃料カード ※カードはメーカーごとに発行				
油種	ENEOS・Shell・COSMO	油種	ENEOS	油種	COSMO	ENEOS	宇佐美	
レギュラー	119.0円	レギュラー	121.0円	レギュラー	114.7～116.7円	114.1～116.1円	113.4～115.4円	
ハイオク	129.0円	ハイオク	131.0円	ハイオク	124.7～126.7円	124.1～126.1円	123.4～125.4円	
軽油	102.0円	軽油	99.0円	軽油	91.8～93.8円	95.5～97.5円	92.2～94.2円	
【価格は税抜】		【価格は税抜】		【価格は税抜】				
全国共通・燃料カード ※カードはメーカーごとに発行								
油種	ENEOSウイング	FLEX&TRUST カード(Shell)	TRUST&FLEX カード(出光)	エネクスフリート				
レギュラー	111.1～113.1円	112.6～114.6円	114.5～116.5円	109.8～111.8円				
ハイオク	121.1～123.1円	122.6～124.6円	124.5～126.5円	119.8～121.8円				
軽油	87.0～89.0円	94.3～96.3円	90.7～92.7円	88.9～90.9円				
【価格は税抜】								